

2012年11月5日

FCCJ×第25回東京国際映画祭  
「日本映画・ある視点」部門 作品賞受賞作品  
『GFP BUNNY —タリウム少女のプログラム—』(公開タイトル:『タリウム少女の毒殺日記』)  
特別上映会・記者会見のご案内

平素はお世話になっております。第25回東京国際映画祭「日本映画・ある視点」部門作品賞の受賞作品『GFP BUNNY —タリウム少女のプログラム—』(公開タイトル:『タリウム少女の毒殺日記』)の特別上映会と作品ゲストによる記者会見を11月12日(月)FCCJ(日本外国特派員協会)にて開催いたします。何卒ご取材の程、よろしく願いいたします。

■日時:11月12日(月) ■登壇者ゲスト: 土屋豊監督

■場所:(社)日本外国特派員協会

(東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル北館20階/有楽町駅より徒歩1分/TEL:03-3211-3161)

■時間(予定):16:00- マスコミ受付+開場

16:30- 作品紹介・上映(82分)

18:10-TIFF 依田チェアマンによる挨拶、フォトセッション、本作品の土屋監督とのQ&Aセッション

-終了次第、カクテルパーティ(ゲストを囲むでのカクテルパーティーを予定しております。)

※17:45- Q&A からのご取材の方向けに、マスコミ受付を致します。※ラインのご用意はございます。

※特別上映会・記者会見・カクテルパーティに参加をご希望の方は2枚目の返信用紙にてお申込みください。

※パーティへのご参加希望の方は事前にお申込みが必要です(料金制1名様 税込1,500円)。

インディーズの最先端が揃ったといえる候補作の中で、本作は実際にあった事件から着想を得て、しかも複数の視点を構造化することによって、大胆でエネルギッシュな創作意欲を発揮した。

(「日本映画・ある視点」部門 審査委員総評より)

★注目ポイント

① **インディペンデント日本映画 海外飛躍への登竜門 TIFF「日本映画・ある視点」部門 作品賞受賞作!**

活況を呈し続ける日本映画の中から、インディーズ映画シーンの最先端を国内外に紹介している「日本映画・ある視点」部門。過去の受賞作は、本部門の受賞をきっかけに、世界の数多くの映画祭で上映され、高い評価を得ている。

第24回(2011年)受賞作:『ももいろそらを』(小林啓一監督)⇒サンダンス映画祭コンペ部門、ロッテルダム映画祭等で上映  
第23回(2010年)受賞作:『歓待』(深田晃司監督)⇒ロッテルダム映画祭、香港国際映画祭等、30以上の映画祭で上映  
第22回(2009年)受賞作:『ライブテープ』(松江哲明監督)⇒ドイツ・ニッポンコネクション「デジタルシネマアワード」受賞の他、数々の国際映画祭にて上映。新作「フラッシュバックメモリーズ3D」は本年度 TIFFF コンペ部門出品、「観客賞」を受賞。

★「日本映画・ある視点部門」では、作品の英語字幕制作の助成、また海外映画祭プログラマーや海外プレスへ作品紹介を積極的に行い、この部門を足掛かりに世界各国の映画祭へ羽ばたけるよう支援しています。

◆『GFP BUNNY —タリウム少女のプログラム—』(公開タイトル:『タリウム少女の毒殺日記』) 作品情報

2005年に実際に起きた、タリウムによる母親毒殺未遂事件によって世間を騒がせた「タリウム少女」をモチーフとした16歳の少女が主人公のメタフィクション。鋭くクールな視点で現実を問う超問題作!(2013年春、渋谷アップリンクにて公開決定)



©W-TV OFFICE

◆注目の異色キャスト&斬新な構成

◆主演は現役女子大生、グラビアアイドルの倉持由香、母親役には、国際派女優の渡辺真起子(『愛の予感』ロカルノ国際映画祭・最高賞受賞/小林政広監督)、身体中に入れ墨をほどこし、シリコンや金属を埋め込む、実在の身体改造アーティスト Takahashi も登場。

◆劇中では、フィクションと並行して、実在の科学者や専門家の解説を交える斬新な構成により、独自の世界観を展開。

② 世界の独立系映画の新しい資金調達方法:クラウドファンディングを活用し、配給宣伝費を募集中!

クラウドファンディングプラットフォーム motion gallery : [http://motion-gallery.net/projects/GFP\\_BUNNY](http://motion-gallery.net/projects/GFP_BUNNY)

今年のキアロスタミ監督・カンヌ出品作『ライク・サムワン・イン・ラブ』の資金調達方法としても注目された「クラウドファンディング」。サンダンス映画祭やカンヌ映画祭に出品された多くの作品がこの仕組みを活用し、映画業界の注目を集めている。

<土屋豊 監督プロフィール>

1999年、異色の長編ドキュメンタリー『新しい神様』が山形国際ドキュメンタリー映画祭で国際批評家連盟賞特別賞を受賞。劇場公開でもロングランを記録し、ベルリン国際映画祭などにも招待された。2003年、初の長編フィクション『PEEP“TV” SHOW』がロッテルダム国際映画祭国際批評家連盟賞特別賞、モントリオール国際ニューメディア・ニューシネマ映画祭最優秀長編映画賞などを受賞。海外でも劇場公開され、国際的な注目を集めた。

FCCJ×第25回東京国際映画祭「日本映画・ある視点」部門 作品賞受賞

『GFP BUNNY —タリウム少女のプログラム—』

(公開タイトル:『タリウム少女の毒殺日記』)

11月12日(月)特別上映会・記者会見の取材申込書

返信先:東京国際映画祭 広報グループ宣伝チーム

11月8日(木)18時までにご返信下さいませ。

メール): [tiff-pr@tiff-jp.net](mailto:tiff-pr@tiff-jp.net) / FAX) 03-3553-4788

※ご参加されるイベントにチェックを入れてください。

上映から参加

Q&A から参加

パーティに参加(料金1名様、税込1,500円)

御社名・媒体名: \_\_\_\_\_

ご担当者: \_\_\_\_\_

ご連絡先: (メールアドレス) \_\_\_\_\_ (TEL) \_\_\_\_\_